

鍼灸医学的メンタルヘルス診断としての頸部経絡テストの有用性

本田 泰弘¹⁾²⁾, 津田 彰³⁾
鄧 科²⁾, 堀内 聡²⁾⁴⁾

要 約

近年、ストレス社会を反映して、うつ病などの精神症状や身体的不定愁訴などが増加しており、メンタルヘルスに対する重要性が高まっている。補完・代替医療である鍼灸医学は、予防医学、心身医学を根底におき、行動医学とも密接な関連性を有する医学である。心身のアンバランス状態を未病の段階より、経絡・経穴系の変動として捉える診断法を有する。我々は現在まで、鍼灸医学的診断法の中より、比較的客観性がある経絡テストのうち、セルフ診断が行い易く、多くの経絡の状態を判定できる頸部の経絡テストに注目し、どの程度メンタルヘルス状態を把握できるか検討をすすめている。その結果、頸部経絡テストで惹起された「痛み・つっぱり感等」の有無に、メンタルヘルス状態の不調や変動が鋭敏に反映され、鍼灸医学的診断のメンタルヘルスへの応用が示唆されている。本稿では、頸部の経絡テストの方法とその有用性について、現在までの研究知見から考察する。

キーワード：頸部経絡テスト、鍼灸医学的診断、メンタルヘルス、セルフケア、予防医学

I. はじめに

私たちは現在、様々なストレスの中で生活を営んでおり、心身の健康を保持増進していくことが重要な課題となっている。特に現代のストレス社会を反映して、うつ病などの精神疾患や身体的不定愁訴などが増加しており(津田, 2009)、メンタルヘルスケアの役割が再認識されている。とりわけ、一次予防の立場から、メンタルヘルスの不調の早期発見とセルフケア、ヘルスプロモーションが重要である。

さて、鍼灸医学は古代中国で発祥した医学であり、気、経穴、経絡など東洋医学独自の生体観で人体を把握、分析、診断し治療を行う伝統医学である。また、鍼灸医学は予防医学、心身医学を根底におき行動医学とも密接な関連性を有する医学であり、病に至る未病の段階から、心身の微細な変化を、経絡・経穴系の変動として捉える診断法を有する(矢野・久住, 2002)。現代のストレス社会に生きる私たちは、ストレスから

いかに心身を守るか、行動科学的視点に基づく具体的な予防法が必要となっている(津田・稲谷, 2009)。この意味において鍼灸医学のメンタルヘルス領域への更なる応用が望まれている。

鍼灸医学の研究面では、現在まで科学的な解明が試みられているが、臨床における特に診断では、脈診など施術者の主観的な要素が多くあることが問題点としてあげられる。そのためデータを客観的に測定したり、数値化したりしにくいことが、この方面での臨床研究を難しくしている理由である。

今後、メンタルヘルス領域における鍼灸医学の研究を推進していくためには、多くの客観的なデータが必要となってくる。この客観的データの収集のためには、施術者のみならず被施術者もまた、短時間で習得でき、自分自身で判断でき、なるべく主観的な要素が少ない自己診断法が不可欠となる。

そこで、我々が注目したのは経絡テストである。この方法は、いくつかある鍼灸医学的診断の中でも、最

1) 福岡天神医療リハビリ専門学校
2) 久留米大学心理学研究科
3) 同大学心理学科
4) 日本学術振興会特別研究員

も客観性、再現性がある診断法のひとつである。現在まで、経絡テストを扱った先行研究は、スポーツ領域や単一症状に限局した研究が主で、経絡テストとメンタルヘルスとの関連性はほとんど行われていない（表1）。

このことより、我々は、鍼灸医学的診断法のひとつである経絡テストとメンタルヘルスとの関連性を検討することにした。本稿ではメンタルヘルスの自己診断として有用性が高いと考えられる、頸部経絡テストの方法、意義について現在までの研究知見から考察する。

II. 鍼灸医学とメンタルヘルス

1. 経絡とは

さて、向野（1999）が提唱している経絡テストの経絡という概念であるが、鍼灸医学では、経絡という特

別な生体観がある。これは現代医学ではまだ発見されていないエネルギーの通行ルートのことであり、その中を気や血という微細な物質が流れているとしている。人体の前面では肺経、大腸経、脾経、胃経、任脈（図1）、体の後面には、心経、小腸経、腎経、膀胱系、督脈（図2）、体の側面には、心包経、三焦経、肝経、胆経、帯脈（図3）が走行している。

2. 経絡と五臓六腑

この経絡は諸内蔵（東洋医学では五臓六腑という）と連絡しており、体表部も走行する。この経絡の機能としては全身に正常な気血を巡らせ、人体の健全な生理活動を維持することであり、またそれと同時に気血の過不足や外邪の侵入などに応じて疾病の生ずるところにもなる。

表1 経絡テストに関する先行研究

	対象	方法	指標	結果
沢崎, (2001)	企業の社員 117 名 (53.8 ± 6.4)	経絡テストの治療開始前, 治療 4 週終了後, 5 週治療前, 8 週終了後で判定	経絡テストの制限数と NRS : Numerical Rating Scale : 数値的評価スケール	鍼治療後経絡テストの制限個数は 8 週終了後, 有意に減少 治療後 8 週間で, 頸肩部, 膝, 腰痛の NRS が改善
近藤, (2002)	男性 20 名 (卓球競技歴 7 年以上)	経絡テストによる鍼治療後で肩関節の屈曲動作を測定	三次元計測 (床よりの肩マーカーの高さの左右差)	20 名中 4 名が肩のマーカーの高さの左右差消失
石丸, (2002)	女性 1 名 (35 歳)	冷え症を経絡テストで治療し, 効果判定	経絡テスト制限数・サーモグラフィ (日本電光製 JTG-5370)	治療後経絡テスト制限数: 上半身 11 個 → 2 個, 下半身 5 個 → 1 個に減少 サーモグラフィ: 上・下肢の 20℃ 以下の皮膚温領域消失
櫻庭, (2007)	血液透析受療者: 男性 7 名 女性 11 名 計 18 名	血液透析患者のかゆみの程度を経絡テスト治療群と治療なし群に分け, 治療前後に VAS で比較	かゆみの程度を示した VAS: Visual Analogue Scale: 視覚的アナログスケール	治療群の VAS 値の平均が 51.2 → 18.5 と有意に減少。治療なし群は有意差なし
泉, (2007a)	大学ボクシング選手 20 名 (20.3 ± 1.0 歳)	ボクシング夏期合宿期間 (7 日間) に経絡テストによる自己評価	① 経絡テストの陽性動作数の合計の推移 ② 初日と最終日の陽性動作数 ③ 経絡テストの動作別の陽性人数の推移	① 合宿の進行と共に陽性動作数が増加 ② 最終日に有意に動作数が増加したのは, 全体の動作の約半数であった ③ 特に腰部に陽性動作が増加
泉, (2007b)	大学ボクシング選手 20 名 (20.3 ± 1.0 歳)	経絡テストに基づいた鍼治療群とセルフストレッチング群の効果比較	経絡テストの陽性動作数	経絡テストの陽性動作の合計が鍼群が有意に減少 ストレッチング群は有意差なし
泉, (2007c)	大学生: 男性 54 名 (20.4 ± 1.0 歳) 女性 26 名 (20.3 ± 0.8 歳) 計 80 名 (20.3 ± 0.9 歳)	健康で特に自覚症状のない大学生の経絡テストの陽性率を調査. 本人が経絡テストを行い自己記入	経絡テストの陽性率 (全陽性箇所人数 / 参加総人数)	全体で平均して 5.6 動作に陽性反応がある 全体では陽性率の高い部位は頸部, 腰部が多い 女性では特に頸部が多い

NRS: Numerical Rating Scale: 数値的評価スケール: 痛みの強さを 0 から 10 とし口頭で伝える。

VAS: Visual Analogue Scale: 視覚的アナログスケール: 100mm を 10 等分し、痛みの程度を 0 から 10 とし評価

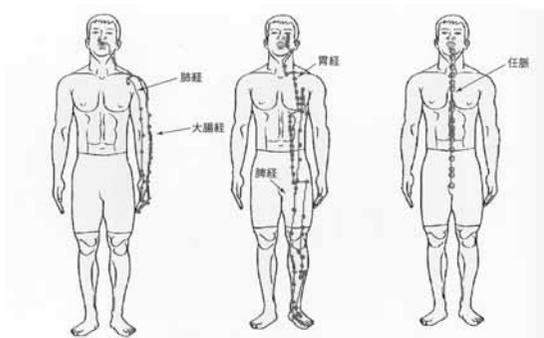


図1 体前面を走行する経絡
(向野, 2005. 痛みのマネジメント-西洋医学と鍼灸医学からのアプローチ. 医歯薬出版. P238 より引用)

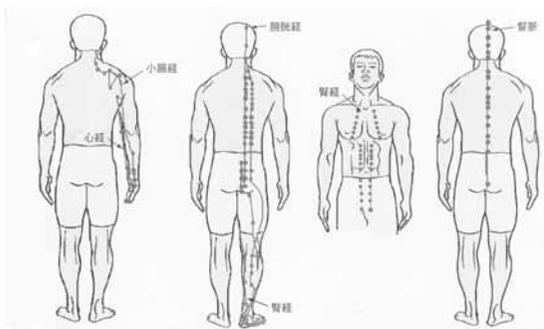


図2 体後面を走行する経絡
(向野, 2005. 痛みのマネジメント-西洋医学と鍼灸医学からのアプローチ. 医歯薬出版. P239 より引用)



図3 体側面を走行する経絡
(向野, 2005. 痛みのマネジメント-西洋医学と鍼灸医学からのアプローチ. 医歯薬出版. P230 より引用)

3. 鍼灸医学でいう病気の原因

また、病気の原因を①内因（七情つまり、怒、喜、憂、悲、思、恐、驚の感情の乱れ）、②外因（六淫つまり、風、寒、暑、湿、燥、火の環境の変化）、③不内外因（飲食、労倦、房事、外傷等）と3つに分けている。これらの原因によって、経絡上の気血の流れの過不足

が起こり、経絡上に変化が起こるとしている。

4. 経絡の調整

これに対し鍼灸医学的治療ではこれら経絡の気血の過不足を判断し、経絡上に存在する経穴に刺激を加え気血の流れを調整しようとする。なお古代人の説明する経絡と病気との関係は、疼痛疾患系や自律神経系の症状、精神系の症状等とが経絡と結びつけて説明されている（東洋療法学校協会, 1995）。

5. 心と経絡との関係

経路の状態と精神機能との間には、以下に述べる通り、密接な関わりがあるとされ、経路の診断によって心の状態を把握することが出来る。

1) 心の変化と体表の変化（心身一如）

鍼灸医学が心身一如という考えに基づいた医学であり、心を含む心身の診断・治療においては経絡・経穴系という体表部の変化を対象としている。

2) 心と五臓六腑

鍼灸医学は西洋医学にはない心身医学的側面があり、独自の生体観でいわゆる心の領域を捉えている。それによると人間の意識、精神、感情などいわゆる心は、五臓六腑（肝・脾・腎・肺・心・胆・胃・膀胱・大腸・小腸・三焦）といわれている内臓の働きと密接な関係にある。

3) 全身と体表と五臓六腑（経絡・経穴）

さらにこの五臓六腑は、気が流れるとされる経絡という一種のエネルギールートを通じて、全身各部、特に体表部を走行する経絡・経穴系と、くまなくネットワークを形成している。

4) 心の変化と体表（経絡・経穴）の変化

例えば恐れが強い場合、恐れは感情は鍼灸医学では腎臓・腎経と関係が深いため、これら感情の変化は僅かなものから程度の差はあれ、体表部の腎臓と関連する経絡経穴上に圧痛・硬結など客観的な現象となって出現する。また、その反応部を刺激することで不均衡を調整することができる。その他、怒は肝臓・肝経、喜は心臓・心経、思は脾臓・脾経、悲憂は肺臓・肺経、と深く関係している（図4）。

5) 心の変化の早期診断、早期治療の重要性（未病治）

また鍼灸医学では、未病治という概念があり、初期のアンバランス状態のうちに治療し、病を未然に防ぐことを重要視している。言わばこの経絡・経穴系は、心を含めた体の病的な状態を知らせる警告系であり、同時にその病的状態を正常に戻すための治療系という

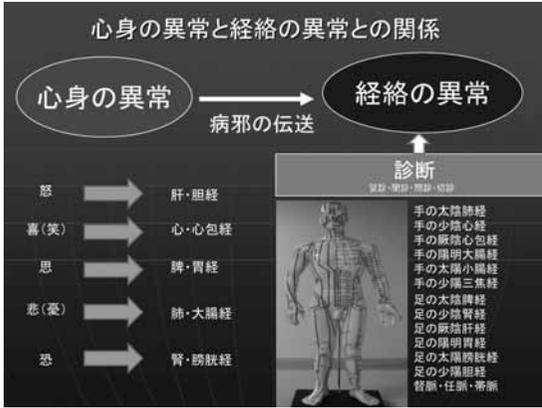


図4 心身の異常と経絡の異常との関係

ことができる。このため素早く心身の変化を捉え、変化させることが可能となる(東洋療法学校協会, 1995)。鍼灸医学の理論に基づくと、経絡テストで惹起された「痛み・つっぱり感等」の感覚が出現する場合、該当する経絡が関係する精神活動に何らかの不調があると考

Ⅲ. 経絡テストについて

経絡テストは、向野(1999)により提唱された、鍼灸医学的理論に基づいた経路の診断法と治療システムである。手順としては、上半身に対しては、頸・上肢・手首・体幹、下半身に対しては、下肢・足首・体幹とに分け、それぞれ主要な関節に、前屈、側屈、後屈などの運動負荷をかける(図5)。

そして、運動負荷時に、「痛み・つっぱり感等」の反応が生じた場合は、その運動により牽引され、負荷がかかる経絡に異常があると判断する。さらに、その経絡の異常状態から生じる各関節の運動制限を、経絡上に存在する経穴を用いて調整し治療を行う。きわめてシンプルで、誰でも短時間に簡単に修得できる経絡の診断法と治療システムである。

経絡テスト時に動きを制限する要因としては、①筋緊張、硬結、筋疲労、②日常生活における不摂生、③緊張などの精神的要因、④気温や温度、⑤手術痕、⑥病気などをあげている(向野, 1999)。

これら要因により、各経絡の気の流れが滞り、それぞれの経絡が支配している各筋肉等を緊張させ、その結果、運動負荷時に「痛み・つっぱり感等」の感覚が生じると考えられる。

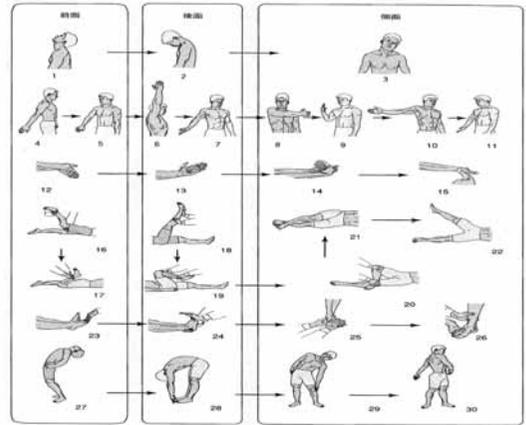


図5 経絡テストの手順

(向野, 2005. 痛みのマネジメント-西洋医学と鍼灸医学からのアプローチ. 医歯薬出版. P232より引用)

1. 頸後屈 2. 頸前屈 3. 頸側屈は、それぞれ頸部に対する運動負荷である。
4. 肩伸展 5. 肘回内 6. 肩屈曲 7. 肘回外 8. 肩水平屈曲 9. 肘屈曲 10. 肩水平伸展 11. 肘伸展は、それぞれ肩や肘に対する運動負荷である。
12. 手尺屈 13. 手橈屈 14. 手屈曲 15. 手伸展は、それぞれ手関節に対する運動負荷である。
16. 股伸展 17. 膝屈曲 18. 股屈曲 19. 股屈曲(膝屈曲) 20. 股外旋 21. 股内旋 22. 股外旋は、それぞれ股や膝関節に対する運動負荷である。
23. 足屈曲 24. 足伸展 25. 内返し 26. 外返しは、それぞれ足関節に対する運動負荷である。
27. 腰後屈 28. 腰前屈 29. 腰回旋 30. 腰側屈は、それぞれ腰部に対する運動負荷である。

Ⅳ. 頸部経絡テストについて

1. 頸部経絡テストの意義

向野(1999)の提唱する経絡テストであるが、これには基本的に約30の関節運動があり、熟練した検者が行っても約10分程度の時間を要する(図5)。しかも、伏臥位や仰臥位におけるテスト法もあり、横になれない環境下では、全過程を行うことは不可能である。また、約30の各関節運動は、頸・上肢・手首・体幹、下肢・足首と全身に及ぶ。これらそれぞれの関節運動を、診断上の立場から考えると、頸部は多くの経絡が走行するため、診断上、重要な部位であるといえる。

頸部に対する運動負荷と、たとえば上肢の肘や下肢の膝のみの関節運動と比較すると、上肢の肘や下肢の膝のみの負荷では限られた経絡のみしか検査できないのに対して、頸部は前屈、後屈、側屈の3方向の負荷のみで同時に全身の多くの経絡の状態を効率よく把握できるテスト部位である。

泉ら(2007c)の報告によると、自覚症状のない大学生の男女80名に対し12週にわたり調査した結果、経

絡テストにより、痛みやつっぱり感、腫れぼったく重たい感じ、だるい感じを自覚した経絡テストの陽性率は、頸部(22.4%)、腰部(16.0%)、下肢(7.1%)、上肢(6.7%)と、頸部が最も多かった。

このことは、頸部の経絡テストの陽性率が、メンタルの状態など、本人が自覚していない状態を他の部位に比べ比較的高率に検出できている可能性を示唆しており、診断的価値を裏付けるものと考えられる。

なお、腰部における経絡テストも頸部の経絡テストと同様に、診断的な価値が高いと考えられている。しかしながら、各個人が繰り返し実施する場合など、自己診断の立場から考えると、頸部の経絡テストの方が適していると思われる。短時間で日常生活の中で服装や、靴の種類、周囲の状況に関係なくいつでも誰でも効率よくどこでも行えるテスト法といえる。

2. 頸部経絡テスト法の実際

1) 頸部経絡テストの手続き

頸部経絡テストは、基本的には3方向の運動負荷テスト方法がある。まず、準備段階として、座位か立位状態において、肩や上半身が緊張していない状態をつくりだすため、両肩を上下に2~3回運動してリラックスしてもらう。次に頸部後屈、頸部前屈、頸部右側屈、頸部左側屈(図6)の順番でそれぞれの運動負荷動作をおこなう。そのとき、何らかの痛み、つっぱり感、違和感、だるさなどの感覚を指標に各個人が自己評価をおこなう。

2) 経絡テストの評価について

向野(1999)によると、経絡テストの運動負荷時の評価は痛み、つっぱり感、違和感、だるさの4種類が単独で、また合併して出現するとしている。治療前と治療後の状態をVASにより10段階評価で自己判断している。しかしながら、はじめて被験者が自己判断で10段階評価を行う場合、痛みやつっぱり感などの感覚を細かく評価しにくい場合もある。泉らの報告によると、経絡テストの特に初回の測定では、個人内での陽性、陰性の基準を明確にできず、時間もかかることを指摘している(泉, 2007a)。

そこで、著者らは、10段階評価に代わり、初心者や被験者にも判断がしやすいと思われる「0:痛み・つっぱり感等がない」、「1:少し痛み・つっぱり感等がある」、「2:中等度痛み・つっぱり感等がある」、「3:耐えられない痛み等」の評価法を独自に導入した。なお、泉(2007a)は、各経絡テストを行い、動作に伴う痛み、つっぱり感、違和感、だるさがあれば、陽性動作とし

て評価している。

筆者らも経絡テストの運動負荷時に痛み、つっぱり感、違和感、だるさ等の感覚を数値化するVAS方式ではなく、上述の4段階評定に加えて運動負荷時に痛み、つっぱり感、違和感、だるさ等の感覚が有るか、無いかに分けデータ分析を行っている。臨床では運動負荷時に痛み、つっぱり感、違和感、だるさ等の感覚の程度も判断基準として大切であるが、程度のみでなく、これら感覚が有るか無いかの判断も病態を診断する上で見逃してはならない重要な意味を持っているからである。

3. 頸部経絡テストと各経絡との関係

1) 頸部前屈と経絡

頸部の後面には太陽経である、手の太陽小腸経、足の太陽膀胱経と督脈が走行している。そのため、頸部の前屈動作により、これら経絡が直接牽引される。つまり、頸部の前屈動作により影響を受ける経絡としては、督脈や手の太陽小腸経と表裏関係にある手の少陰心経と足の太陽膀胱系と表裏関係にある足の少陰腎経があげられる(図6)。鍼灸医学では、恐は腎臓・腎経と、喜は心臓・心経と深く関係しているため、頸部の前屈動作によるテストはこれら精神面のアンバランス状態を主に判断していることにつながると考えられる(図6)。

2) 頸部後屈と経絡

頸部の前面には陽明経である手の陽明大腸経、足の陽明胃経と任脈が走行している。そのため、頸部の後屈動作により、これら経絡が直接牽引される。つまり、頸部の後屈動作により影響を受ける経絡としては、任脈や手の陽明大腸経と表裏関係にある、手の太陰肺経と足の陽明胃経と表裏関係にある足の太陰脾経があげられる(図6)。思は脾臓・脾経、悲憂は肺臓・肺経と深く関係しているため、頸部の後屈動作によるテストはこれら精神面のアンバランス状態を主に判断していることにつながると考えられる(図6)。

3) 頸部側屈と経絡

頸部の側面には手の少陽三焦経、足の少陽胆経が走行している。そのため、頸部の側屈の動作により、これら経絡が直接牽引される。つまり、頸部の側屈動作により影響を受ける経絡としては、帯脈や少陽三焦経と表裏関係にある手の厥陰心包経、足の少陽胆経と表裏関係にある足の厥陰肝経があげられる(図6)。怒は肝臓・肝経と深く関係しているため、頸部の側屈動作によるテストはこれら精神面のアンバランス状態を主



図6 頸部経絡テストと各経絡との関係

に判断していることにつながると考えられる（図6）。

V. CMI を指標とした頸部経絡テストとメンタルヘルスとの関連性

筆者らは、鍼灸医学的診断である経絡テストと世界的に汎用されている Cornell Medical Index (CMI) 健康調査表との関連性を明らかにする目的で、自由志願した健康な大学生 257 名を対象に以下の検討を行った。

比較的客観的に評価しやすい頸部経絡テストを用い、被験者が頸部の後屈、前屈、左右側屈の各動作を行った時の痛み・つっぱり感等について、自己評価を求めた。その結果、頸部経絡テストを施行した時、「痛み・つっぱり感等」を報告した対象者の割合は各動作によって若干異なった：左側屈 62.6%、右側屈 61.5%、後屈 54.9%、前屈 44.9%。

経絡テストによって誘発された「痛み・つっぱり感等」の有無と CMI によって測定された精神的項目の下位尺度（不適応、抑うつ、不安、過敏、怒り、緊張、精神的自覚症）との間の関連性を t 検定によって分析した。その結果、頭部の前屈の負荷に関しては CMI によって測定された精神項目のうち、不適応、抑うつ、不安、精神的自覚症の下位尺度得点においてのみ関連性が認められた。一方、頸部の後屈の負荷に関しては、全ての低位尺度得点について、頸部の左右側屈の負荷に関しては、左右において若干の違いがあるものの、測定されたほとんどの精神的項目の低位尺度得点と関連性が認められた（表2）。

鍼灸医学的には精神的な不安定、アンバランス状態が、各経絡の気の流れを阻害し、各筋肉系の血液循環

表2 頸部経絡テスト・CMI との関連性の一覧表

CMI 下位尺度	頸部負荷動作			
	前屈	後屈	右側屈	左側屈
不適応	○	○	○	○
抑うつ	○	○	○	○
不安	○	○	○	○
過敏		○		○
怒り		○	○	○
緊張		○	○	
精神的自覚症	○	○	○	○

有意な関連性のあった項目を○で示す

の流れ等を悪くし、全身に影響し、多くの経絡が通過する頸部に運動負荷により、「痛み・つっぱり感等」として出現したものと考えられる。

これらの知見は、鍼灸医学的診断法の一つである頸部経絡テストで惹起された「痛み・つっぱり感等」の有無にメンタルヘルス状態の不調や変調が鋭敏に反映されることを示しており、鍼灸医学的診断のメンタルヘルスへの応用が示唆された。

VI. おわりに

近年、世界的に注目を集めている医療行動科学では、病気になりにくい生活習慣への行動の変容を重要視している。そして、生活習慣の改善、セルフケア行動の習得、再発予防のための良い行動習慣の維持が大切であるとしている（津田・坂野, 2003）。メンタルヘルス領域においても、メンタルヘルスの不調の早期発見とセルフケア、ヘルスプロモーションが重要である。現在のストレス時代に対応するため、医療行動科学的な視野にたち、経絡テストという簡便な方法で、質問紙や生化学的な方法を用いず、短時間で各自のメンタルヘルス状態を判断することができれば、その価値は高いといえる。

筆者らは、頸部経絡テストにより、メンタルヘルスのセルフ診断を目指している。今回行った、頸部経絡テストと CMI との関連性の検討の結果では、頸部経絡テストで惹起された「痛み・つっぱり感等」の有無にメンタルヘルス状態の不調や変調が鋭敏に反映されることが示された。

今後、頸部経絡テストと精神的健康度検査（GHQ-28）、POMS（気分プロフィール）短縮版、健康関連 QOL 尺度（SF-36）など各心理的テストとの相関性を

さらに検討する必要がある。各質問紙の意図するメンタル状態は微妙に異なっており、頸部経絡テストとの関連性も多少異なることが予想される。このことにより、頸部経絡テストで惹起された「痛み・つっぱり感等」がメンタルヘルス診断においてどのような意味をもつか、より明らかになるとと思われる。

引用文献

- 石丸浩徳 (2002). 冷え症に対する鍼治療の効果 全日本鍼灸学会雑誌, 52(2), 131-136.
- 泉 重樹 (2007a). 経絡テストによる大学ボクシング選手のコンディション評価 日本臨床スポーツ医学会雑誌, 15(3), 385-394.
- 泉 重樹 (2007b). ボクシング選手の筋疲労に対する鍼治療とストレッチングの効果比較—経絡テストによる検討 東洋医学とペインクリニック, 37(3-4), 61-69.
- 泉 重樹 (2007c). 自覚症状のない大学生に対する経絡テストの陽性率 東洋医学とペインクリニック, 36(3-4), 83-91.
- 近藤史生 (2002). 三次元計測による鍼刺激前後における経絡テスト負荷動作の検討 電子情報通信学会技術研究報告, 102(196), 9-12.
- 向野義人 (2008). スポーツ領域の痛み 田山文隆・加納龍彦 (編) 痛みのマネジメント 医歯薬出版株式会社 pp.192-196.
- 向野義人 (1999). 経絡テスト 医歯薬出版株式会社
- 櫻庭 陽 (2007). 血液透析患者の QOL 維持・向上を目指した鍼治療の導入とその効果—かゆみを対象とした鍼治療の実践 腎臓, 30(2), 167-174.
- 沢崎健太 (2001). 企業内労働者における運動器症状への鍼治療の効果と医療費との関連性に関する検討 全日本鍼灸学会雑誌, 51(4), 492-499.
- 東洋療法学校協会 (編) (1995). 東洋医学概論 医道の日本社
- 津田 彰 (編) (2009). 医療の行動科学 2: カレント・トピックス 北大路書房
- 津田 彰・坂野雄二 (編) (2003). 医療行動科学の発展 現代のエスプリ No.431 至文堂
- 津田 彰・稲谷ふみ枝 (2009). 丹野義彦・利島 保 (編) 医療心理学を学ぶ人のために世界思想社 pp.76-93.
- 矢野 忠・久住 武 (編) (2002). 伝承医学 人間総合科学大学

Usefulness of neck meridian test as an acupuncture medical mental health diagnostic test

YASUHIRO HONDA (*Fukuoka Tenjin Medical Rehabilitation Academy, Graduate School of Psychology, Kurume University*)

AKIRA TSUDA (*Department of Psychology, Kurume University*)

KE DENG (*Graduate School of Psychology, Kurume University*)

SATOSHI HORIUCHI (*Graduate School of Psychology, Kurume University, Research Fellow for the Japan Society for the Promotion of Science*)

Abstract

There is an increasing number of people with mental illness such as depression and unidentified complaints, so more attention has been paid to mental health. Acupuncture and moxibustion medicine, as complementary and alternative medicine, is one of fields of medicine which is close to preventive medicine, psychosomatic medicine, and behavioral medicine. It has original diagnostic way to detect psychosomatic disturbances as variations of meridian and acupuncture point. We have examined a possibility that results of neck-meridian test, one of relatively objective diagnostic tests in acupuncture and moxibustion medicine, could evaluate mental health status. Pain or symptoms caused by stretch of neck correlated tightly with mental health status or disturbances, indicating that acupuncture and moxibustion medical diagnostic test can be applied to mental health domain. In this article, we will explain how to carry out neck-meridian test, and discuss about how useful neck-meridian test is especially focusing on results of neck stretches.

Key Words : neck meridian test, acupuncture and moxibustion medical diagnosis, mental health, self-care, preventive medicine